



ごあいさつ

紅葉の候 市民の皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、8月30日に開会しました8月通常会議においては28件の議案を審査いたしました。今回可決した補正予算には、国庫補助金等を活用した事業費の補正として、高齢者施設等の防災・減災対策に係る整備費補助や、民間児童クラブ開設整備費補助などのほか、



後列右より

草野 聖地議員
青山三四郎議員
葉月 陽 議員

前列右より

川口 正徳議員
竹内 照夫議員
竹内 基二議員
寺田 英幸議員



暮らしの安心・安全に係る事業費の補正として、市道中4018号線(由美浜)の道路冠水対策、堂の川支流(馬場一丁目ほか)の排水機能復旧等が措置されており、市民の皆様が安心・安全な日々を過ごしていただくための取り組みが一層強化されたと考えております。

令和4年度の決算審査では、2年目となる大津市総合計画第2期実行計画のリーディングプロジェクトにおける各分野の取組がより一層、横断的に相乗的に展開されるよう「夢があふれるまち大津」の実現に向けて着実に取り組まれたことを評価しました。

また、実質収支が45年連続の黒字決算となつている現状についても高く評価しましたが、中長期的な視点で捉えれば、予期できない感染症の流行、物価高騰、災害の激甚化など近年の予測困難な情勢の変化や、学校施設の長寿命化改良事業や学校トイレ改修事業、市民センターの老朽化対策など公共施設の維持管理、国民スポーツ大会・障がい者スポーツ大会の開催など、将来的な財政需要の増加を見通し、効果的・効率的な支出の徹底が求められます。市民福祉のさらなる向上と持続可能な都市基盤の構築、健全財政の堅持に努めながら市政運営を進めることが重要と考えます。

私たち湖誠会の議員は、「夢があふれるまち大津」の実現に向け、皆様のお声を真摯に傾聴し、大津市政の発展のために引き続き全力で取り組む所存です。今後とも所属議員に対しまして、さらなるご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶いたします。

幹事長 竹内 照夫

行政視察報告

鹿児島市立図書館と道の駅都城を視察(7月19~20日)

湖誠会では、7月に、中心市街地の大型商業施設に図書館の分館を設置した鹿児島市の鹿児島市立天文館図書館、そして、宮崎県都城にある物産振興拠点施設「道の駅都城」を視察しました。

大津市立図書館は、老朽化などの課題があり、将来に向けた検討が必要です。

また、大津市公設地方卸売市場のさらなる利活用なども懸案事項です。これらの検討に活かす知見が得られる有意義な視察でありました。



鹿児島市立天文館図書館

●特色(令和4年4月開館)

- ① まちの賑わいを創出するという課題から生まれた人の集まる図書館
- ② 商業施設4.5階の一部が図書館。館内にはカフェ・キッズスペースがあり、BGMも流れている。ギャラリー、交流スペース、勉強、ビジネス利用スペースも可
- ③ 図書の貸し出しはカウンター、セルフ貸出機あり。書籍の配架は、利用者の視点にあわせ、テーマ別に分かれている

道の駅都城

●特色(令和5年4月プレオープン)

- ① 「日本一の肉と焼酎」を中心とした地場産業を販売
- ② 多様な世代の交流と賑わいを通じた地場産業の活性化に寄与
- ③ 防災拠点として市民、道路利用者が利用できる「防災道の駅」

令和6年度「政策要望書」を市長に提出

令和5年10月19日(木)、令和6年度予算編成にあたり、77項目に及ぶ湖誠会としての「政策要望書」を市長に提出しました。

市民の皆様が安心・安全に住み続けることができる、「夢があふれるまち大津」を目指し、今後とも執行部と共に全力で取り組んでまいります。



令和4年度大津市決算の概要

8月通常議会において、一般会計を含む12会計の令和4年度決算について審査審査し、全ての決算議案について認定しました。

総括

- 歳入総額、歳出総額ともに、過去3番目の規模となりました。
- 前年度に比べ、実質収支、単年度収支ともに減少しました。

歳入

- 市税は、対前年度比で23.6億円の増収となりました。 (+4.6%)
- 国庫支出金は、対前年度比で36.3億円の減となりました。 (△9.6%)
- 地方交付税は対前年度比で1.2億円の増となりました。 (+0.9%)

歳出

- 扶助費等の義務的経費は、対前年度比で17.0億円の減となりました。 (△2.1%)
- 一般行政経費は、対前年度比で18.4億円の増となりました。 (+4.1%)
- 投資的経費は、対前年度比38.2億円の減となりました。 (△22.8%)

一般会計決算額

(単位：千円)

	令和4年度	令和3年度	R04/R03
歳入	141,913,599	145,851,074	97.3%
歳出	137,393,333	141,074,206	97.4%
差引(形式収支)	4,520,266	4,776,868	94.6%
実質収支	3,692,557	4,632,721	79.7%
単年度収支	△940,164	1,361,481	△69.1%
実質単年度収支	1,377,650	2,643,106	52.1%

実質収支：形式収支から翌年度に繰り越すべき財源を控除した額
 単年度収支：当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額
 実質単年度収支：単年度収支に実質的な黒字を加え、実質的な赤字を差し引いた額

令和5年度8月補正予算のポイント

8月通常会議においては、約18.5億円及び約0.9億円を追加する5件の補正予算案が提出され、慎重に審査した結果、いずれの議案も可決しました。

I. 当初補正の概要(9/28採決分)

- 国庫補助金等を活用した事業費の補正
 - 高齢者施設等の防災・減災対策に係る整備費補助 [5,149万円]
 - 民間児童クラブ開設整備費補助 [3,780万円]
- 事業進捗等に応じた事業費の補正
 - ユネスコ「世界の記憶」登録を契機とした三井寺の智証大師関連文書のレプリカ等製作 [150万円]
 - 大河ドラマ「光る君へ」の放送開始を見据えた石山公園の園路補修等 [940万円]

- 暮らしの安心・安全に係る事業費の補正
 - 市道中4018号線(由美浜)の道路冠水対策 [2,900万円]
 - 堂の川支流(馬場一丁目ほか)の排水機能復旧 [7,950万円]
 - 農地、農業用施設の災害復旧費 [340万円]

II. 追加補正の概要(10/11採決分)

- 1. 事業の追加
 - 新型コロナウイルス感染症対応経費の補正
 - 感染症対応に係る相談体制の継続経費 [145万円]
 - 予防接種法に基づく予防接種健康被害救済制度による給付金の支給 [8,893万円]

主な事業



8月通常会議一般質問

質問、答弁は一部抜粋です。詳しくは大津市議会ホームページをご覧ください。



青山 三四郎 議員

認知症施策の推進について

Q これまでの市の取組を体系的に総括するとともに、今後の認知症施策の具体的な方向性を認知症患者やそのご家族などに明示するためにも、認知症条例の制定に向けた検討を始める必要があると考えるが、認知症基本法の設置事項である認知症条例について、どのように施策として検討していくのか、市の見解は。

A これまでの取組を総括し、新たな高齢者福祉計画・介護保険事業計画に反映することで、着実に施策を推進していくことが重要であり、認知症条例を含む他都市の状況を確認しながら国の計画策定などの動向を注視しつつ、次の第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画に反映させ、着実に施策を推進していく。

※他に3項目の質問あり。

* * * * *



寺田 英幸 議員

交通安全対策の推進について

Q 本年4月以降の自転車運転中のヘルメット着用に関する市民等への注意喚起、啓発活動、情報提供の取組状況と、今後の自転車ヘルメット着用を促進する施策に対する取組は。

A 市ホームページや広報おおつ、生活安全ポータルサイトに加え、メール配信サービスやエックス(旧ツイッター)、大津市ライン公式アカウントなど様々な媒体を活用するとともに、全国交通安全運動などの機会を通じて注意喚起、情報提供などに取り組んでいる。今年度は、交通安全協会の協力を得て、転倒時の重症化リスクの高い65歳以上の方にモニターをお願いし、啓発シールを貼ったヘルメットを無償配布するとともに、その後アンケートを実施し、今後の交通安全施策に活かしていきたい。



※他に2項目の質問あり。

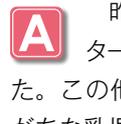
* * * * *



葉月 陽 議員

本市の男女共同参画の現状について

Q 家庭における男女共同参画の取り組みとして令和4年度に実施した食材宅配サービスモニター事業やおおつパバスクールなどをはじめとする男女共同参画センターの事業に対する評価や、今後の取り組みについて伺う。



川口 正徳 議員

大津市公設地方卸売市場の活性化について

Q 大津市公設地方卸売市場の活性化に向けては、経営戦略に基づき、入場業者等とも連携しながら公設市場としての強みを生かしながら再構築していくべきと考えるが、今後の方針は。

A 大津市卸売市場事業経営戦略においては、入場業者の意見を踏まえ、交通アクセスや立地の優位性を生かしながら、市場の活性化も含めた持続的かつ安定的な市場運営の推進を経営の基本方針に位置づけたところであり、これらの優位性を市場の強みの一つとして、市民や事業者に積極的に発信していく。

また、空き店舗の解消は市場経営の安定化や市場の活性化につながることから、様々な媒体を活用した広報や周知を行うなど、市民が気軽に立ち寄ることのできる店舗の誘致に努めていく。

※他に4項目の質問あり。

* * * * *



草野 聖地 議員

大津市立図書館の課題と将来の検討について

Q 昭和51年の開館以来、生活スタイルの変化や中心市街地の減退などと合わせ、駐車場がないことなどの新たな課題が顕在化している。コロナ禍を乗り越えようやく日常を取り戻しつつある今、図書館の将来について検討を進めるべきと考えるが見解は。

A 開館から41年が経過し、老朽化や開架スペース等の狭小化、バリアフリー対策不足などの課題があり、大規模な改修が必要と認識している。年間21万人以上が利用する図書館はまちのにぎわいの創出に一定寄与しており、複合施設の整備検討に当たっては、(仮称)新・琵琶湖文化館の整備をはじめ、周辺施設の状況等も見極めながら、あらゆる可能性を排除せず慎重に検討する必要があると考える。